

「令和4年度  
土砂災害防止に関する  
絵画・作文」

入賞作品集

令和5年3月 鹿児島県土木部砂防課

## 御 礼

令和5年3月

鹿児島県土木部参事兼砂防課長

星野 久史

国土交通省と県は、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関する様々な行事を行っています。その一環として、土砂災害及びその防止について理解を深めていただくため、県内の小、中学校の児童、生徒を対象に「令和4年度土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集しました。

募集に対して県下40の小・中学校から、合計189点（絵画70点、作文119点）もの応募がありました。応募いただいた児童、生徒及び保護者の皆様、また学校関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

作品は県の審査を経て、国土交通省で審査が行われました。その結果、国土交通省の入賞4作品、県の入賞12作品、合計で16作品が決定されました。受賞された児童、生徒の皆様、誠におめでとうございます。

入賞作品については、県において作品集として取りまとめました。また、土砂災害防止の広報、啓発のため、入賞作品を県ホームページで公表しているほか、県内各地において巡回展示し、多くの方々に観ていただくこととしております。展示のスケジュールが確定しましたら、順次、県ホームページなどでお知らせします。

土砂災害は、短時間で多くの人々の生命・身体・財産を奪うおそろしい災害です。県では毎年のように土砂災害が多発しており、令和4年は46件の土砂災害が発生しております。今後も引き続き土砂災害を防止するため砂防堰堤や斜面の保護などのハード対策とともに、警戒避難態勢の支援などのソフト対策をあわせて総合的な取組を推進し、県民一人ひとりが安心・安全に暮らせる強靱な県土づくりを進めてまいります。

# 令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集結果について

令和5年2月  
鹿児島県砂防課

## 1 目的

土砂災害防止月間(6月1日～30日)の一環として、県内の小学生・中学生を対象に土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうため実施する。

## 2 募集期間

令和4年6月1日から同年9月15日まで

## 3 本県の入賞作品数

- (1) 国土交通事務次官賞4点  
(絵画(小学生)の部2点, 作文(中学生)の部2点)
- (2) 県知事賞 最優秀賞 4点, 県知事賞 優秀賞 8点

## 4 令和4年度の全国(本県)の応募作品数及び入賞作品数

- (1) 小学生 総数: 1,857 (56)    うち絵画: 1,401 (47) 作文: 456 (9)
- (2) 中学生 総数: 2,137 (133)    うち絵画: 1,483 (23) 作文: 654 (110)

(単位:点)

区 分	応募作品数		入 賞 作 品 数					
			最 優 秀 賞 国土交通大臣賞		優 秀 賞 国土交通事務次官賞		県知事賞 最優秀賞	県知事賞 優秀賞
			うち本県	うち本県	うち本県	うち本県		
絵画(小学生)の部	1,401	(47)	1		15	(2)	(1)	(2)
絵画(中学生)の部	1,483	(23)	1		15		(1)	(2)
作文(小学生)の部	456	(9)	1		15		(1)	(2)
作文(中学生)の部	654	(110)	1		15	(2)	(1)	(2)
計	3,994	(189)	4	(0)	60	(4)	(4)	(8)

## <参考>本県の応募作品数及び入賞作品数の推移

(単位:点)

		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
小学生	絵 画	55	71	31	111	98	47
	(国土交通大臣賞)					(1)	
	(国土交通事務次官賞)	(1)	(1)		(2)	(1)	(2)
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	作 文	5	32	27	20	44	9
	(国土交通大臣賞)						
	(国土交通事務次官賞)	(1)	(1)		(1)	(2)	
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)
計	60	103	58	131	142	56	
学校数	15	32	19	37	30	19	
中学生	絵 画	19	30	33	157	78	23
	(国土交通大臣賞)						
	(国土交通事務次官賞)				(1)	(1)	
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(2)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)
	作 文	130	184	67	107	191	110
	(国土交通大臣賞)		(1)				
	(国土交通事務次官賞)		(1)	(2)		(1)	(2)
	(県知事賞 最優秀賞)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(県知事賞 優秀賞)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)
計	149	214	100	264	269	133	
学校数	16	32	22	40	27	21	
応募作品数	合計	209	317	158	395	411	189
学校数	合計	31	64	41	77	57	40

# 令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」受賞者名簿

(敬称略)

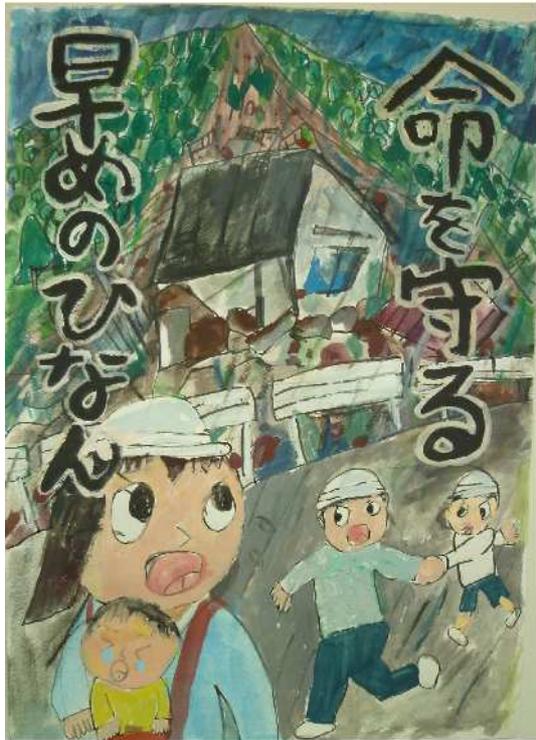
部門	学校名	学年	氏名	受賞名
絵画	霧島市立天降川小学校 きりしましりつあまりがわしょうがっこう	4	野崎 宏太 のざき こうた	国土交通事務次官賞
	鹿児島市立伊敷小学校 かごしましりついきしょうがっこう	4	南 伶奈 みなみ れな	国土交通事務次官賞
	霧島市立天降川小学校 きりしましりつあまりがわしょうがっこう	6	野崎 健太 のざき けんた	県知事賞 最優秀賞
	南九州市立勝目小学校 みなみきゅうしゅうしりつかつめしょうがっこう	5	おおとなり 亜美 おとなり あみ	県知事賞 優秀賞
	いちきくしきのしりついちきしょうがっこう いちき串木野市立市来小学校	6	さとう ふみや さとう ふみや	県知事賞 優秀賞
	大崎町立大崎中学校 おおさきちょうりつおおさきちゅうがっこう	2	まつした ひな まつした ひな	県知事賞 最優秀賞
	鹿児島市立郡山中学校 かごしましりつこおりやまちゅうがっこう	1	とくしげ りおな とくしげ りおな	県知事賞 優秀賞
	鹿屋市立大始良中学校 かのやしりつおおいらちゅうがっこう	2	たかはし ももこ たかはし ももこ	県知事賞 優秀賞
	作文	曾於市立財部小学校 そおしりつたからべしょうがっこう	5	たかはし ゆり たかはし ゆり
曾於市立財部小学校 そおしりつたからべしょうがっこう		2	かみあつまり あると かみあつまり あると	県知事賞 優秀賞
錦江町立田代小学校 きんこうちょうりつたしろしょうがっこう		5	みやはら まりあ みやはら まりあ	県知事賞 優秀賞
奄美市立朝日中学校 あまみしりつあさひちゅうがっこう		2	ふくもと まな ふくもと まな	国土交通事務次官賞
喜界町立喜界中学校 きかいちょうりつきがいちゅうがっこう		3	こやま ひかり こやま ひかり	国土交通事務次官賞
鹿児島市立紫原中学校 かごしましりつむらさきばるちゅうがっこう		2	ひさまつ あおい ひさまつ あおい	県知事賞 最優秀賞
屋久島町立岳南中学校 やくしまちょうりつがくなんちゅうがっこう		1	いけだ くるみ いけだ くるみ	県知事賞 優秀賞
喜界町立喜界中学校 きかいちょうりつきがいちゅうがっこう		3	いわまつ まお いわまつ まお	県知事賞 優秀賞

# 入 賞 作 品

【絵 画】

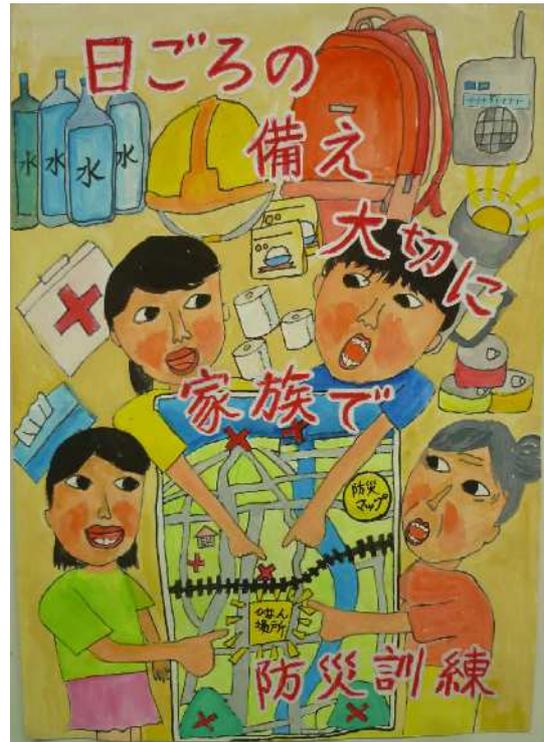
令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」  
国土交通省・鹿児島県入賞作品(絵画)

国土交通事務次官賞



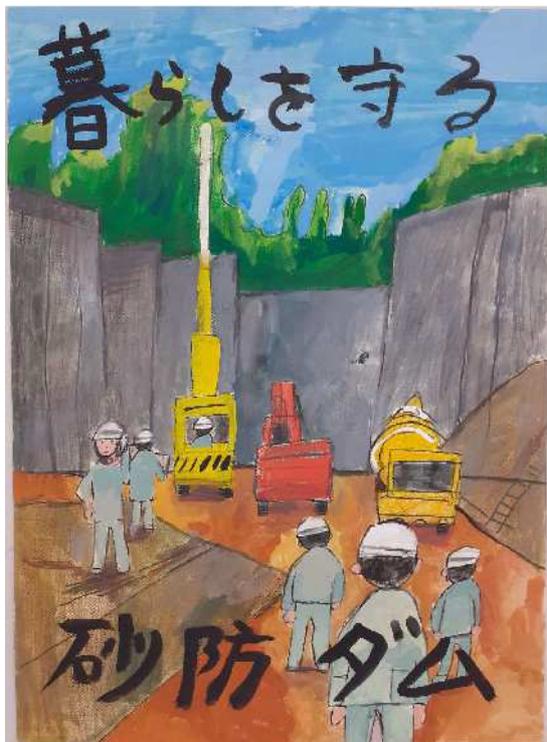
霧島市立天降川小学校4年 野崎 宏太  
「命を守る 早めのひなん」

国土交通事務次官賞



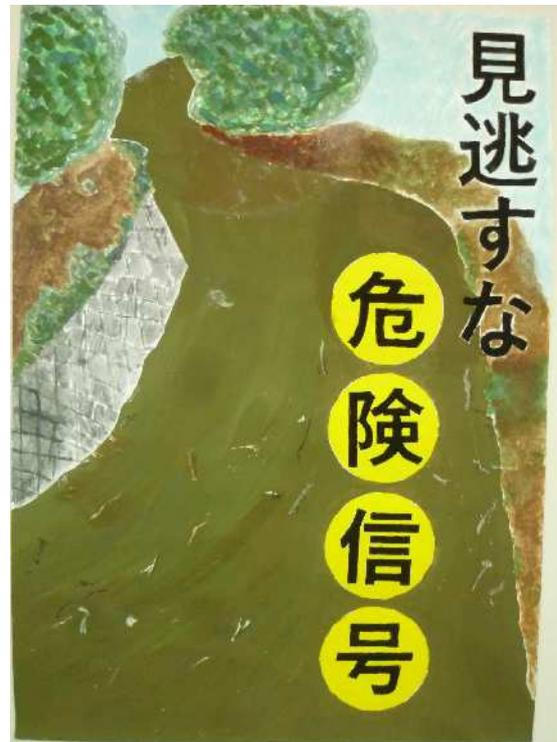
鹿児島市立伊敷小学校4年 南 伶奈  
「日ごろの備え大切に家族そろって防災訓練」

県知事賞 最優秀賞



霧島市立天降川小学校6年 野崎 健太  
「暮らしを守る 砂防ダム」

県知事賞 最優秀賞



大崎町立大崎中学校2年 松下 姫奈  
「土砂災害の危険信号を見逃すな」

県知事賞 優秀賞



南九州市立勝目小学校5年 大隣 亜美  
「急いで避難！」

県知事賞 優秀賞



いちき串木野市立市来小学校6年 佐藤 文哉  
「早めのひなん」

県知事賞 優秀賞



鹿児島市立郡山中学校1年 徳重 里音奈  
「前兆を見逃すな！」

県知事賞 優秀賞



鹿屋市立大始良中学校2年 高橋 桃子  
「こんな雨の日に外に出たら危ない」

入 賞 作 品

【作 文】

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「自分にできること」

鹿児島県 奄美市立朝日中学校 2年 福元 愛渚

「まだ、雨が続けているのか。」

今年の夏は、東北地方のニュースを見るたびに心配になった。私の大好きなりんごが泥水で腐り、家や車が水に浸かり、道路が陥没している映像の数々。中には、土砂災害で建物が押し流されているのを見ると、「せっかくのお盆なのに。どんなに困っていらっしやることだろう。」と切ない気持ちになった。

「あつという間に水が上がってきた。とても逃げられない。これから、何から手を付ければいいのか。」

と、落胆して、ぼう然と立ち尽くす人々。災害の恐ろしさを痛感した。

近年の温暖化のせいだろうか。「100年に一度」と言われるような大雨がたびたび降り、水害が毎年、日本のどこかで起こっている。8月の1か月分の雨が、1日で降ったという。

私の住んでいる奄美は、台風もよく通り、大雨に見舞われることもある。4年前の9月の台風では、私が通っていた朝日小学校の裏山が崩れた。その道を通る人たちは、遠回りをして登下校をしていた。

今年の4月に大島支庁の土木建設課の方々による「土砂災害防止」の出前授業があった。実際に起こった地滑り、土石流等の映像を見せてもらった。本当に地面が滑り、木々や電柱が跡形もなく流れていく映像に驚いた。自然の脅威の前に人間は、無力なのだとがく然とさせられた。

また、災害を防ぐためにがけを法枠工で固めたり、「砂防ダム」を建設したりしていることも教えてもらった。砂防ダムの効果についてビー玉を用いた実験で見せてくれた。砂防ダムがあると、土砂に見立てたビー玉の大半は、止まり、家屋は守られることがよく分かった。私は、登校時に「砂防ダム、建設中です」と書かれた看板を見つけた。砂防ダムの効果を知り、とても安心できた。大島支庁の方が、こう語られた。

「情報を知り、やはり『早めの避難』が1番大切です。このことは、お家の人とも話し合ってくださいね。」

私は、東北地方の大雨の映像を見ながら、母と土砂災害について話し合った。母は、こんな話をしてくれた。

「今年は鹿児島市で起こった8・6水害から29年経つけど、ちょうど、お母さんが働き始めた年だね。その年の8月3日は、お母さんが住んでいた地域でも、水害があったのよ。その時、お母さんは、国分の町に買い物に行っていて、戻ってきたら、びっくり。すでに天降川が堤防を越えて氾濫していて、お母さんの住んでいたアパートの駐車場は、水がたまっていたのよ。水は、瞬く間に増えて、アパートの1階は、水に浸かってしまったの。そして、何より悲しかったのは、お母さんの働いていた学校に通っていた女の子が、土砂崩れに巻き込まれて亡くなってしまったのよ。何年経っても忘れられない出来事だよ。」

私は、母の話聞いて、改めて、自然災害は恐ろしいことだと感じた。自然災害は、身近な人や大切な人の命さえ奪うときがある。その女の子の家族は、どんなに悲しかっただろう。そう思うと、胸が痛くなった。

自然災害は、いつ起こるか分からない。私に何ができるだろうか――。考えてみた。

1つ目は、キキクルなどを使い、早めに情報を集めることだ。そして、ハザードマップで、家の近くの危険な場所はどこか、避難所はどこかを確認しておきたい。今住んでいる所は、4階なので、水に浸かる心配はないが、山が目の前なので、気になるところだ。

2つ目は、すぐ避難できるような準備をしておこうと思う。リュックに着替え、懐中電灯、タオルなどをすぐ入れられるように準備しておきたい。やはり、日頃の備えは大事だと思う。

3つ目は、災害などが起こるのは、両親が家にいるときばかりとは限らないので、避難の方法を家族で話し合っておきたい。また、同じマンションの人と日頃からあいさつを交わすなど、顔見知りになっておくことも大切だと思う。

4つ目は、学校で行う避難訓練を真剣に行うことだ。以前ニュースで見たが、被害に遭われた人が「訓練をしていたので、冷静に逃げることができました。」と語っておられたことを思い出した。

私は、今、当たり前の日常を過ごしている。しかし、土砂災害などで家や財産を一瞬で無くしてしまった人もいる。災害募金があったらぜひ協力したい。

当たり前の日常や、生活の安全を守ってくれている多くの人に感謝し、自分にできることをしていきたいと感じた夏になった。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 想定内へ変えるために 」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 3年 小山<sup>こやま</sup> 光<sup>ひかり</sup>

「ここで、大きな土砂崩れがあったんだよ。」

8月6日、車で竜ヶ水の国道を走っていた時、母が言った。大きな土砂崩れ。それは、私が生まれていない1993年の8月6日に起こった、ハチロク水害のことだった。気になって調べていた時に、竜ヶ水で起こった土石流の再現映像を見つけた。人々のために災害と戦ったある警察官の話だ。

その年、冷夏や豪雨など、日本各地で異常気象が起きた。いつまでも梅雨明けしない鹿児島付近では、梅雨前線が停滞し100年に一度の大雨に見舞われていた。竜ヶ水駅では、運行していた電車は線路が冠水し、その反対側を土石流で塞がれた。その結果、電車内で650人が孤立してしまった。夏休み中ということもあって、電車も混み合っていたそうだ。このあたりの地層は硬い岩盤に軽石が薄く張り付いており、また、急斜面の谷が多く重なり合う地形のため水害や土砂崩れが起きやすい、と映像の解説にあった。1977年にもこの場所で大規模な土砂崩れが発生し、9人が死亡している。危険だと判断した車掌は乗客を国道に避難させた。しかし、国道は車が多く渋滞しており、泥水が次々に流れ込んでくるため逃げ場は無かった。そして、全員が避難した頃に2度目の土石流が発生。人々はパニック状態になっていた。桜島フェリーが救助要請を出されていた中、桜島の裏側からも漁船が救助に向かっていた。養殖イカダや漂流物が多く、大きなフェリーでは接岸できる場所が無かったからだ。そして、3度目の土石流が発生し、逃げ遅れた10名が海に投げ出されてしまった。死にかけていた警察官だったが瓦礫を押し上げ、土石流から生還した。そして自分が負った怪我を忘れ、救助に移った。漁船でやってきた漁師たちも、骨折した人やお年寄り、小さな子供を優先に救助を始めた。国道は膝上まで冠水していたイカダにつかまって凍えている人も救助し、最後の船が出た。警察官の8時間の死闘が終わった。危険にさらされた650の大切な命。全員は助からなかった、と彼は泣いていた。私は死にそうな体で最後まで救助を行ったこの警察官や協力した人々を素晴らしいと思った。私が以前住んでいた場所でこのような大きな災害があったことを私は知らなかった。今住んでいる島も無縁ではない。私が小学4年生の時、喜界町で50年に一度の大雨が降った。その時の道路は泥水で溢れて、たくさんの車が行き交っていた。親が子どもたちを学校に迎えに行ったからだ。きっと、竜ヶ水付近もこのような状態だったのだと思う。それに加えて逃げ場もなく、いつ土石流が発生するかも分からない。人々がこの恐怖と寒さ、不安でパニックになってしまうのは当然だと思った。

私たちがこのようなパニック状態になってしまうのは、「想定外」だからであると書かれていた。100年に一度だからと言って、ハチロク水害は決して特別ではない。普段からの備えをしておくことによって想定内にしておかなければならない。その大切さを専門家は私たちに訴えている。

私たちが訓練をする意味や昔の災害について学校で何度も学習する意味がよく理解できた。人間は自然災害に抗えない。「想定外」を「想定内」にするために地域の人々は真剣に取り組みを考えさせてくれている。それを私たちが無駄にしてはいけない。もっと一人一人が過去の出来事について理解し、訓練のときには真剣に取り組む。そして、今ある知識を周りの人に伝えることが大切だと思う。ハチロク水害の大きな原因は、異常気象だった。私たちは今、異常気象の中に生きている。地球温暖化が進み、降水量も増えてきている。土砂災害の危険は十分にあり、他人事ではないのだ。「想定内」の状況に近づけるため、これからの生活を変えていこうと強く思う。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 最優秀賞

「この先の未来へ」

鹿児島県 曾於市立財部小学校 5年 <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>ゆり</sup>侑里

みなさんにこの先の未来は見えていますか。

私には、この先の未来が全然分かりません。特に、土砂災害や水の事故、火の事故、戦争のことが心配です。その中でいちばん身近なことは何かと考えたとき、土砂災害について考えてみることにしました。

わたしが、土砂災害について考えてみたときに、大事にしたいと思ったことが4つあります。

1つ目は、土砂災害が起きる前に、避難所を確認することです。避難所を確認していないと、もしもの時に分からなくなったらこまるし、にげおくれたら自分の命が助からないかもしれないからです。「あまり土砂災害はないから。」という安易な思いではなく、「いつ起こるか分からない。」という思いが大切だと思います。前に、社会科の学習で「ハザードマップ」について学習しました。身近にあるきけんについて、確認をしたいと思います。

2つ目は、避難所に行く前の食べ物や飲み物の確認です。避難所のにげてから、自分が持ってきていなかったとしたら避難所で過ごせないかもしれないし、もし、避難所に食べ物などがなかったとしたら、土砂災害がおさまるまで時間がかかるので、体力が持たないかもしれないからです。

3つ目は、避難所に着いて自分のことだけではなく、周りにいる人を少しでも助けることです。その理由は、自分が周りの人を助けるだけでも、周りの人は笑顔になると思ったからです。土砂災害で悲しみはあるかもしれないけれど、笑顔でいたいからです。笑顔になれば、自分の心や体が元気になると思います。大変なときにこそ、笑顔と元気が1番必要なのではないかと思います。

4つ目は、土砂災害が終わった後のことです。終わった後は、家に帰ります。そのとき、家がどうなっているのか、想像が付きません。でも、そんな時にこそ、自分にできることなら何でもしたいと思います。できることをおたがいに協力し合って助け合えれば、うれしい気持ちになって、自分もいい気持ちになると思ったからです。人はみんな、助け合いが1番必要だと思います。大変なときこそ、助け合いをする時だと思うし、みんな仲良くすることが必要だと思います。助け合いがないと人は生きていけません。仲良くしていたら助け合いもできます。助け合いと仲良くすることは大切なことだと思います。こまっている人がいたら教えてあげたり、手伝えることがあったら手伝いをしたり、身の回りには、よりよく生きていくために必要なことがたくさんあります。でも、わたしは、家族や近所の方とは仲良くできているけれど、友達といっしょに遊んでいる時や宿題をする時などに、けんかをしてしまうことがあります。だからこれからは、相手のことを考えて、けんかをしないようにしていきたいと思います。

この先の未来は分かりません。土砂災害のことについて考えてみて、一つ一つ確認することが大切だと思います。一つ一つとは、避難所や食べ物や飲み物など命を守るためのもの、自分だけではなく周りの人との助け合いや協力のことです。この先の未来のために、わたしは、これからも大切にしていきたいと思います。

## 令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 最優秀賞

### 「 終わりなき防災と向き合う 」

鹿児島県 鹿児島市立紫原中学校 2年 <sup>ひさまつ</sup>久松 <sup>あおい</sup>葵

7月24日、桜島の噴火警戒レベルが最高の5に初めて引き上げられた。それに伴い、市役所からのアナウンスが、町中に響き渡った。レベルが引き上げられた桜島には、19もの河川があるが、通常は水が流れていない水無川が多く、火山活動が活発なため、少ない雨でも土石流が発生する。噴火災害だけでなく、土石流の被害もあるため、災害の危険性が高い地域だ。そのため、私はとても不安に思った。被害の大きさはどうなのか、また爆発は起こってしまうのかといろいろなことを考えた。布団の中に入ってからそれらのことを考えて、なかなか寝ることができなかった。

次の日の朝、テレビをつけると、昨日の桜島の出来事がニュースで大きく取り上げられていた。それを見ていて、私の頭に「もし災害が発生したときに私はしっかり行動できるのか」ということが浮かんだ。その日から、私の防災に対する意識が高まった。

まずは、家に防災グッズがあるかを確認した。少し探してみたところ、棚の中にティッシュや食べ物、懐中電灯などが入った箱を見つけた。防災グッズが家にあったことに安心しつつも、多くの課題が見つかった。1つ目は、置いてある場所。棚の高い位置にあり、もしもの時に取り出しづらいのではないかと思った。2つ目は、箱に入っているというところ。箱は少し大きく、これでは運びづらいのではないかと思った。3つ目は、箱の中身。情報を得ることができるラジオ、ケガや体調をくずした時の医薬品など、とても必要な物が足りていなかった。こうした課題は防災グッズを袋に入れ、すぐに取りれるように玄関に置いたり、防災グッズを買い足したりするなど、とても簡単に改善できる。もしもの時の安心のためにすぐに実行したい。また、用意した後も定期的なチェックや、防災グッズの場所を家族全員が把握することも大切だと思う。これらを行って、災害前の防災グッズによる対策を入念にしていきたい。

次に、災害時の被害について調べることにした。防災ということは、災害について正しい知識をもっておくことも大切だと思うからだ。家にあった災害についての冊子やインターネットを使って、噴火、地震、土石流などいろいろな災害時を想定して調べてみた。今までの経験や知識から知っていることも多かった。しかし、なかには初めて知ることも多くあり、改めて災害の恐ろしさを感じた。加えて、災害が起きた時にどのような行動を取ることがいいのかを調べた。今まで、間違った認識を持っていたこともあり、知らないことへの危険を感じた。これからも上手く情報を活用して、状況に応じた判断ができるようにしたい。

今度は、鹿児島県や私の家の周辺の避難所について確認してみた。調べてみると、県内には学校や公民館など多くの避難所があることが分かった。これで、県内どこにいても避難ができる場所があるという安心感を覚えた。私の家の周辺もいくつか避難所があり、心強い気持ちになった。その後、我が家の避難所を話し合っ決めて、家族みんなで共有した。この話し合いのおかげで、災害が発生した時に家族が別々の場所にいたとしても、共有した避難所につながっているため、慌てずに行動できると思う。

災害とは、いつ、どこで、何が起こるか分からない。また、予測することが難しい。しかし、情報を集めたり、家族とそのことを共有したりするなど防災に対して、簡単なことも多くあると感じた。防災についていろいろ学んだことで、今の私は以前よりは災害時の行動が分かったと思う。だが、まだまだだと感じているため、これからも終わりのない防災と向き合っていきたい。もしもの時に冷静に、最善の判断ができるようにするために。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 優秀賞

「 きろくてき大雨 」

鹿児島県 曾於市立財部小学校 2年 <sup>かみあつまり</sup>上集 <sup>あると</sup>歩翔

「ママ、パパがじゅうきにのってたすけに行ったよ。」

テレビのニュースでトンネルにじゅうきにのってたすけに行く人を見ました。ぼくは、その人を自分のパパだと思ったのでした。

ぼくのパパは、じゅうきにのってどうろをつくったり、ダムをつくったりするしごとをしています。どしゃくずれがおきないように山をけずったり、川を広げたりします。大雨でどしゃくずれがおきたときは、よ中でもたおれた木や土をてっきょしに行きます。休みの日には、パパにげんばにつれて行ってもらい、いろんなことを教えてもらいます。ぼくはじゅうきがすきなので、いつもま近で見せてもらいます。

8月5日、ふくいけんやしがけんできろくてきな大雨がふりました。川の水がはんらんして町がどろ水であふれているのをニュースで見ました。そして、どしゃくずれがおきてトンネルにどしゃがながれこんで、車がうごけなくなっているのも見ました。ぼくはこわくてびっくりしました。もし、トンネルにとりのこされたらどうしよう、いえの中から出られなくなったらどうしようと思いました。

そんなとき、またニュースでじゅうきがトンネルの外でどしゃをとりのぞくさぎょうをすると言っていました。ぼくはそれを見て、ぼくのパパがたすけに行ったのだと思いました。

「ママ、パパがじゅうきにのってたすけに行ったよ。」

とママに教えました。ママは、

「そこはあっくんがすんでいるかごしまけんではないから、じゅうきにのっている人はパパじゃないよ。だけど、パパと同じしごとをしている人がたすけに行ったんだね。」

と教えてくれました。また、さぎょうをしているじゅうきのすぐ近くでもにごったどろ水がすごいいきおいでながれていると知りました。こわい思いをしながら、車をすくうためにどしゃをとりのぞくさぎょうをしている人がいるのだと思うと、「かっこいいな。ぼくも人びとのいのちをまもるパパみたいなおしごとをしたいな。」と思いました。

てっきょさぎょうがおわり、とりのこされていた車もトンネルから出ることができたとニュースで知り、あんしんしました。

ぼくの町でもおこるかもしれないどしゃさいがい。ぼくのいえも川や山の近くにあるので、いつ川がはんらんしたり、どしゃくずれがおきたりするのかわかりません。でも、パパやパパと同じしごとをしている人たちが、町の人びとのあんぜんをまもるために日ごろからたいさくをしたり、どしゃくずれのときによ中でも大雨の中でさぎょうをしたりしていて、本とうにかっこいいし、たのしいなと思います。

ぼくもパパみたいに人びとからたよりにされる大人になりたいと思います。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 優秀賞

「 災害から学ぶ 」

鹿児島県 錦江町立田代小学校 5年 <sup>みやはら</sup>宮原 <sup>まりあ</sup>聖愛

「この場所で、2名の先生方がくずれてきた土砂にうまりなくなりました。」

そこは、私たちの学校のうら山。80年前の肝属水害で起こった悲げき。

今回私たちは、総合的な学習の時間で「防災について考えよう」という学習をすることになった。肝属水害については、以前から聞いていたが、「そんな悲しいことがあったのか。」と少し他人事のように思っていた。しかし、今回学習をすることになって、このような悲しいことが2度と起こらないように何か私たちにできることはないかと考えた。

まずは、肝属水害について調べてみることにした。

昭和13年10月14日、台風のせっきんで大すみ半島の南部は、24時間雨量が400ミリをこえた。この大雨で肝属川水系の堤防が10ヵ所決かい。記録的な洪水となり各地で土砂災害が起こった。死者・行方不明者435人。県内で記録に残る最悪のごう雨になったようだ。そして、私たちの学校でも悲げきが。そして、近くには「急傾斜地崩壊危険箇所」という看板が。

私の家の周辺はどのような様子だろう。私たちの学校では、防災マップを夏休み作ることにした。ふだん何気なく通っている道もこうしてじっくり見て回ることのでたくさんのきけんな箇所があることに気づいた。ここにも「急傾斜地崩壊危険箇所」という看板。ガードレールのない水路が私の歩くすぐ近くに。

「ここはふだんから水位が高いよね。」

母が、のぞきこみながら言った。「大雨がふった時は、どうなるのだろう。」と考ただけで足がすくんだ。

私の防災マップは、危険箇所が記入され完成へと近づいてきた。「これくらいだいじょうぶ。」と、思ってすごしていた私。あらためてこのマップを見直し決意した。安易なはんだんが命取りになることを。

この防災マップを生かしたい。夏休みが終わると、それぞれの作ったマップの発表会がある。クラスでは、マップを使って意見交かんをする。でも、もっと多くの人に知らせたい。

「先生、このマップ地域の方々に使ってもらえませんか。」

「役場の方に相談してみましよう。どのように生かせるか。」

私の防災マップが人の役に立つことができる。暑い中、危険箇所探しをしたことが思い出された。

「来年は、もっとはんいを広げて作ってみよう。」

80年前このような悲げきが起こったことを私たちは、わすれてはいけないと思う。

「みんなが、防災意識を高めながら毎日を安全に楽しくすごすことができますように。」と願いをこめて。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「 祖父と母の経験から 」

鹿児島県 屋久島町立岳南中学校 1年 <sup>いけだ</sup> <sup>くるみ</sup>  
池田 来未

鹿児島県は全国でも土砂災害の被害が起きやすい。鹿児島県の土じょうは火山灰堆積のシラス台地で水を含みやすく、モルタル状になった柔らかな土が土砂災害を引き起こすのだ。

私自身は土砂災害にあったことはないが、私の祖父と母は被災経験者だ。

祖父は鹿児島県蒲生町の出身で、高校生になるまで蒲生町の山間にある家に住んでいた。高校1年生の夏、祖父は夏休みで帰省していた兄2人と両親と久しぶりの家族団らんを過ごした。翌日は朝から雨が降り続き、いつまでも降り止まない長雨に祖父が不安を感じていたところ突然「ドン！」という大きな音がして裏山が崩れ山の段差のところで、土砂が止まった。突然のことにおどろいていると、もう1度ごう音と共に土砂が流れ始めた。2度目の土砂くずれで危険を感じた祖父は教科書だけをかばんに詰め込んで両親と兄と一緒に逃げ出した。

家から100メートルほど離れた山の中腹から振り返ると、3度目の土砂くずれで大きな木や竹が直立したまま、母屋を巻き込みながら山肌を滑り落ちていったのをはつきりと覚えていると言っていた。

その日は被害の詳細状況も分からず、かろうじて残っていた馬屋に戻りわらの中で一夜を過ごした。次の日の朝、前日に逃げ出した場所に行き改めて家の方を見てみると、母屋のあった場所からはば100～150メートル、高さ50～60メートル程がくずれてシラス台地の山肌が剥き出しになっていた。

高校生だった祖父は被災した日から1年半ほどを避難所で過ごしたそうだ。50年経った今でも当時のことは鮮明に覚えていると詳細を話してくれた。

また私の母は横浜の出身だが、鹿児島島の曾祖父母宅へ訪れていた時に土砂災害にそう遇した。母も祖父と同じように当時のことは今も忘れられない記憶として残っているらしい。

母が被災したのは中学1年生の夏休み、8月1日のこと。午前中は晴れていたのに夕方から激しい雨になり、雨の音に不安を感じて眠れなかった母が外を見に行くと、母家の隣にある馬屋の床に3センチ位の水が貯まっているのを見て曾祖母を起こした。5分ほどで土間に戻ると水は玄関の段差を乗り越えて土間まで浸水していた。鹿児島島に住んでいる曾祖母も経験したことの無い水の状況に驚いている間にみるみる土間の水位は深さを増して、気がついた時には70センチ程の高さの土間は水で埋まり、あっという間に部屋に浸水した。母は母の妹と従姉妹と一緒に曾祖父母宅に泊まっていたが、年下の2人は浸水当時寝ており、部屋に浸水した瞬間の「水が来たぞ！」の曾祖父の呼び声で飛び起きて間一髪で助かったそうだ。被災した母は雨の降り続く真夜中に懐中電灯の灯りだけを頼りに曾祖父宅から100メートル程先にあった曾祖父の弟の家に避難して一夜を明かした。だく流で道も見えない真っ暗な中、農業用のくわが流れてきて母の足に引っかかり、危うく転びそうになった時は本当に命の危険を感じたと話していた。

祖父も母も幸いに命を失わずにすんだが、2人の話を聞いて土砂災害の際には一瞬の判断が生死を分けるのだと思った。

初めにも話したが、私自身は土砂災害を経験したことはなく、横浜では遠い世界の話だった土砂災害が、屋久島に来てからはとても身近にある災害だと感じるようになった。横浜と屋久島は驚くほど降水量に差があり、「1ヶ月で35日雨が降る」というほど降水量の多い屋久島では、自然災害の中で最も深刻な災害は土砂災害だと思う。実際に2019年の5月には記録的な大雨による土砂災害で、登山者を含めて300人を超える人たちが山中に孤立するという被害もあった。この時には人的被害はなかったが、一歩間違えれば多くの命が失われていたかもしれないと考えると、土砂災害はとても恐ろしいものだと思う。

屋久島では土砂災害を防ぐために砂防ダムや崖崩れ対策などの施設が造られており、土砂災害の起こる危険のある場所を知るための防災マップが作られるなど身を守るための知識を得ることができる。

自然の力を前に私たちにできることは多くないかもしれないけれど、自分や家族の命を守るためにできる限り備えておくことが重要だと強く感じた。また今回聞いた話を心に留めておきたいと思った。

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 県知事賞 優秀賞

「 未来の暮らしに光を 」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 3年 <sup>いわまつ</sup>岩松 <sup>まお</sup>麻央

私たちの暮らす日本では豪雨、地震、津波、台風などたくさんの自然災害が多い。いつ起こるか、来るかわからない状況で暮らさなければならない私たちは、自然災害から身を守るためにどのようなことを身に付け、行動したらよいだろう。

たくさんの災害がある中で私たちの身近にある気候変動は特に深く詳しく考えなければならない災害だと思う。1日の予定を立てるには天気変動についても必要な情報だろう。天気には快晴、曇り、雨、煙霧、あられなど気象庁では15種類に分けられている。その中でも厄介なのが、地盤が緩みやすくなってしまいう雨や嵐などだ。雨にも雨の良さがあるとしても、雨が降り続けてしまうと地盤が緩み、山が崩れてきたり川が氾濫したりという災害が起こってしまう。

実際に4年前の2018年に私が住む喜界島も50年に一度の大雨で、山から土砂が流れてきたり、川が氾濫したりした。当時の私はテレビで流れている喜界島の現実を受け止められなかった。その時私は、運良く島にいなかったため変わり果てた島の姿を目の前で目の当たりにすることはなかった。だが、映像からでも伝わってくる土石流の恐怖は今でも鮮明に残っている。その後島に帰ると、近所の家の屋根やバス停は飛ばされていたのがほとんどだった。今の私が通う中学校の図書室も、窓から雨が入り込んで床が水浸しになってしまったという。それから何ヶ月経っても、屋根がブルーシートに覆われている家は多く、飛ばされたトタンは100メートル先まで飛ばされ大きく変形していた。この時は運良く当たらなかっただけで、またいつかの災害でこのトタンが家や車に飛んでいってしまったらと考えると、今から災害に備えていて損はない。

一般的な災害時に必要な物は水や食料、電灯、薬、情報を得られるラジオなど個人的に必要な物だという。私はある出来事で、これらの物を備えておくことの大事さを感じた。それは2022年1月にミクロネシアのトンガ王国で起こった海底火山の大噴火だ。私の家は災害に対しての備えを全くしていなかった。だから慌てていた。準備をする暇もなくすぐに山の方へみんな避難した。でも何時間か経った頃にだめだと分かっているながらも必要な物を取りに家へもどってしまった。最終的に島に津波が来ることはなかったが、災害が起こってから準備をするのでは間に合わない。そう分かってから私の家では避難用の荷物を準備するようになった。

実際にこういう経験がなかった私にとっていい意味で、いい刺激をもらった。4年前のような大雨の災害ではないが、いつ起こるか分からない災害の備えをすることの大事さを心から実感した。そこで、この作文を通して災害対策について調べることにした。

まず、家の中でできることは、家の中で安全な場所を確認すること。自分でできることは、応急手当の知識を身に付けること。家族でできることは、避難場所や避難道路、集合場所の確認など意外にも自分の身の回りには今すぐに備えることの出来ることがたくさんあった。

自分の身近にある物を確認したり、備えたりするだけで、突然の災害で命を救えるかもしれない。未来がある人たちを守るためにも、自分やその大切な人たちを守るためにも後悔することのない対策ができていたら、それが1番理想だと思う。

見える未来の暮らしの光を途絶えさせないために、自然災害の備えは確実に必要だと今まで体験した災害やこの作文を通して学んだ。突然起こる災害で私のように災害が起こってから準備するのではなく、起こる前に備えておくことが未来の暮らしの光を途絶えさせないためのひとつの考えではないだろうか。

## お知らせ

- 1 入賞作品（絵画・作文）は、鹿児島県のホームページで公表しています。

【鹿児島県砂防課のホームページ】

<https://www.pref.kagoshima.jp/ah08/infra/kasen-sabo/sabo/dosyasaigaikaigasakubun.html>

上記ホームページは「鹿児島県 土砂災害 絵画・作文」で検索が可能です。

- 2 「土砂災害防止に関する絵画・作文」は令和5年度も募集する予定です。  
募集の案内は、鹿児島県砂防課から令和5年5月下旬に県内の小・中学校に送付するほか、鹿児島県ホームページ（上記）にも掲載します。  
来年度も多くの応募をお待ちしています。

- 3 問合せ先

鹿児島県土木部砂防課管理係

E-mail : boushi-gr@pref.kagoshima.lg.jp

Tell : 099-286-3616